

社会と教会
生活と信仰
平和・人権
分かち合い

No.27

共に生きる

聖家族有志会報

編集/〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10 アドラック内 /瀬下幸弘

月
1
2013



クリスマスと新年、
おめでとうございます
おかげさまで「共に生きる」紙読者が、少しずつ各方面に
広がっています。また毎月の発行を楽しみに待っています。
との声も届いています。これからも暮らしの糧となれる
内容を目指し充実させたいと思います。今後ともよろしく
お願い申し上げます。編集部一同（カンバのご支援感謝です）

クリスマスと新年、
おめでとうございます



お知らせ

- ◆1月11日(金)イチイチ祈りの会 修道院 …19時
- ◆1月13日(日)年末年始募金活動の受付終了
北九州信徒協(小倉教会) …14時
14時45分～司祭団との懇談会-16時50分終了
- 英語ミサと交流会(黒崎教会) …15時
- ◆1月15日(火)社会福音部会(アドラック) …19時
- ◆1月20日(日)ACO例会(天神町教会) …13時
- ◆1月26日(土)教区信徒協(今後について)大名町13時半
キリスト者九条(西南KCC)福島牧師 …14時
- ◆1月27日(日)虹の会(黒崎教会) ミサ後～

12月16日(日)は

82,745円

ご協力ありがとうございました。

なお、募金の受付は
1月13日まで行ないます。

(受付は山田・有吉・濱・瀬下・高瀬まで)



「共に街頭募金活動」で見えるもの

募金活動といえば“お金を集めて送金する”が定番です。しかし、送る側と受取る側がすぐ隣にいたとしたら…。『共に街頭募金活動』を始めて10年になります。募金を受取るだけでなく、必要とする人たちの立場になって見えるもの。活動団体、宗教が違ってもひとつになることで見えるもの。それは人ととのふれあいで平和が近づく姿です。

心配された天気も、この日は晴れておだやかな一日となりました。年末街頭募金活動は長年続けられていますが、共に取り組む活動は私たちの特徴です。今回は、小規模障がい者施設エルビスのみなさん、NPO人権オンブズのみなさんとカトリック信徒有志で共に取り組み、短時間でしたが予想を超える寄付を頂きました。

JR黒崎駅前広場

【共に】街頭募金活動

ときのことば

どんな状況にあっても、命をかけて戦争に反対し、平和を訴え続ける。

わたしたちの戦いは今日からが本番です。

絶望的な状況になればなるほど、キリスト者の役割missionがあるはずです。

インマヌエル。アーメン。(12月16日 幸田 和生司教)

援助修道会 修道院より

1月11日:イチイチ祈りの会

場所は修道院聖堂、午後7時から。
どなたでもお出でください。

—わたしにとてのクリスマス—

今年のクリスマスプレゼント

テレビ、ラジオそして街中からクリスマスソングが流れ始めた12月のある日のことです。12~13年前、私が働いていた障がい者施設に入所していた女性利用者が我が家にやってきました。二人の女性に支えられながら杖をつき、不自由な足をかばいながら。彼女は前から電話で「おじちゃん家へ行きたい」と言っていましたが、わざわざ来てくれるとは思っていませんでした。

話によると、彼女は現在ある宗教に入っており、昼間はそこで働いて、夜は実家近くのアパートでひとり暮らしをしているとのことです。きょう来た目的は、“おじちゃんの病気が少しでも良くなるようにお祈りをさせてもらいたい”とのことでした。私は、「五島のキリストの子孫で、カトリック信者で教会にも行っていますし、毎日神様にお祈りしています。」等を付き添いの方にお話して一応断りました。彼女のことについていろいろ話してゆく中で、前は走ることもできたが、今では歩くのも困難になり行動範囲も狭くなつたとのことです。そのため、人の為に働けなくなり、祈ることぐらいしかできないので、以前お世話をになったおじちゃんの為に祈りたいとの思いから私の家に来たことが分かりました。

…このまま帰すわけにもいかず、受け入れる

ことにしました。

軽く目をつぶり、頭を少し下げ、三分間じっとしていたら終わりました。何をしていたのか見えませんでしたが、頭の上に手をかざしている気配を感じました。その昔、キリストだった私の先祖たちは、踏み絵を踏まれたりしました。表向きには仏教徒となり見せ掛けの祈りをし、夜になって納戸の奥に隠していた十字架や聖母子像を出して、自分達が信じる本当の神に向って祈りを捧げていた頃のことをふと思い巡らしました。私は心の中で、「私のために自分が信じる神に祈っている彼女、知的にも身体的にも少し障がいがあるのに、人のために祈っている彼女こそ、どうか健康になりますように…」と私の神に向って賛美と感謝の祈りをしました。

彼女からの優しいプレゼントを戴き、私からも彼女へプレゼントをしました。お互いに今年のクリスマスプレゼント交換ができたような気持ちになりました。

しばらくして電話がありました。「無事に帰りました。きょうは有難うございました。また行かせて下さい。」と明るい声でした。

山田 弘

信徒協

司祭のみなさんと懇談会

日 時：1月13日(日) 14時45分～16時45分
テマ：原発の司教団メッセージを共有し
キリスト者の生き方を分かち合う
資 料：宮原司教講話他（9/22信徒協研修会）
場 所：カトリック小倉教会

どなたでも参加できます。

参加希望の方は、濱まで。 資料有ります。

日本キリスト教団

2月11日(月)
詳細は2月号にて

さいたま教区

谷大二司教の講演
『今なぜ信教の自由か』

日本キリスト教団
小倉東篠崎教会
小倉北区東篠崎1-2-3



【キリスト者平和ネットより】<cpnet@mica.dti.ne.jp>

仏教者とキリスト者が共に毎月「自衛隊の海外派兵の反対と脱原発を求める署名」を総理大臣に提出しています。11月22日、首相官邸前で沖縄の平良修牧師が首相官邸前で呼びかけた言葉をご紹介します。

Never give up !

私は本物の宗教者かどうかを見るリトマス試験紙は、平和に対するその人の信念と姿勢と行動だと思います。それによって、その人の宗教が本物かどうか、人を生かし自分をも大事にし、神に仕える本物の宗教かどうかが、ここに自ずから現れてくると思います。

そういう意味で私たちは選ばれた宗教者であると、畏れながら自負していいのではないかでしょうか。この選びを感謝して、軽く扱ってはならないと思います。

この選びを大事にして、信念に生きていこうではありませんか。それこそが私たち宗教者の“宗教者たる生き様”だと思います。

そのような仲間がいる限り、まだ日本には望みがある、世界には希望があると私は思います。

今日の共同作業、本当にありがとうございました。私たちの志を日本国の代表の総理に伝える行動を今朝もしたわけですが、これを倦まず弛まず続けていきましょう。ギブアップしたらダメです。Never Give Up !

私たちはギブアップしません。ギブアップしないのが宗教者の力です。私たちは永遠を信じているではありませんか！この世の限界を超えて神の国、仏のくにを信じている宗教者です。宗教者はギブアップしません。宗教者らしくやっていきましょう！

「しっかりチラシを配りましょう。よろしくお願ひ致します。」



「こんにちは。年に一度の愛の街頭募金です。ご協力くださ~い。」



街頭募金活動の様子

「少しだけどね」「ありがとうございます」



この旗がとても目立ちました。



あなたに読んでほしい。この絵本は“平和の祈り”なんです。

「赦しの花」



今から56年前、「鬼」を「人間」へと変えた撫順戦犯管理所で起きた奇蹟は、憎しみと報復の連鎖がいまだに続く私たち社会に一つの大きな希望の火を灯してくれます。

～ 私たちが日本に帰る時、管理所の先生は言いました。
「もう二度と武器を持って、この大陸に来てください」。
「日本に帰ったら、きれいな花を咲かせて幸せな家庭を築いてください」～ 絵本「赦しの花」より

祈
り

～朝顔の種、あります！～

この時、中国から「赦しの花」として贈られた朝顔の種があります。お花の好きな方、春に植えて広げてくださいませんか。絵本もお貸しします。お問合せ（高瀬）

キリスト者・九条の会「守りたい定例会
2012年11月24日でのお話 6回シリーズ



いしい まさこ
石井 方子さん
八幡東区在住

八幡東九条の会事務局長
税理士
自身の体験を通して平和の大切さを呼びかけています。

「戦時下のくらしと憲法9条」

(1)

私は1930年昭和5年生まれで82歳です。地上戦の中逃げ惑つた沖縄の人たちのような経験もしていません。原爆にもあつていません。でも終戦は15歳。戦時、戦後の日本をその切れ端にしても、わりあいしつかり記憶している最後の世代ではないかと思っています。劇的なことは何もありませんが、今日は戦時下の銃後の国民の生活をお話ししたいと思っています。

私の生まれた翌年日中から太平洋戦争へと続く道への導火線となつた軍の暴走による満州事変が起こっています。この頃は治安維持法がさらに厳しく改正されて、社会主義、自由主義的思想を持つとされる人の検挙が相次いでいたころで、小林多喜二が特高警察の拷問によつて亡

くなつたのは昭和8年です。教授たちも大学などから、追放されています。

小学校入学は日中戦争が始まつた昭和12年。第2次世界大戦は小学校3年の時です。

小学校低学年の頃はまだ物資も不足することはなく菓子も店にあつて、クラスで慰問袋を作つてみんなでお手紙を入れて戦地に送つたということくらいしか戦争とのかわりもない生活でした、昭和14年にお米の配給統制法ができましたがまだお米に不自由することはなかつたように思います。

神武天皇の建国から2600年にあたるという昭和15年（小学校4年）は、国を上げて盛大に祝賀行事が行われました。その、紀元2600年を境に子供にも分かるくらい世の中が変わつてきました。まず物資がなくなつてきました。先生のお話の中で「天皇」という言葉が出ると気を付けの姿勢を取らなければならなくなつたし、日本人は真つ直ぐの黒髪こそ誇るべきとパーマネントが禁止され、白い割烹着を着た国防

婦人会のおばさんたちが駅や繁華な街頭に立つて「パーマネントはやめましょう」

のチラシを配るのを見る

ようになりました。「バ

ーマネントに火がついて、

あ恥ずかしや恥ずかしい



紀元2600年祝賀パレードの写真

大月書店「子どもたちの昭和史57p」より

パーマネントはやめましょう」とその運動をやし立てる歌を子供は面白がつて歌いました。スパイに気をつけろと先生に言されました。子供の雑誌も軍人の話や忠義を尽くした武士の物語。絵本は軍艦、戦車。空中戦の絵などが多くなりました。お菓子も配給になつて「今日はお菓子の配給の日よ」と手をたたいて喜んだりするようになりました。お菓子の配給は1年も続いたでしょうか、小学校を卒業するころはもう全くなくなりました。こつぺんを買うのに延々並びました。統制となつた主食のお米は一日一人2合3勺とされ、配給以外で買うことは難しくなりました。料理店での米食の提供が禁止されました。衣料、砂糖、マッチも切符制になりました。日用品、食料品は日を追つて手に入りにくくなりました。お魚やたばこお酒も隣組を通じての配給となりました。ミルクも手に入らず、オッパイの出ない母親は、豊富な母乳の出る人を必死で探さねばなりませんでした。

5年生の昭和16年の冬、寒い校庭に並ばせられて校長先生からアメリカ、イギリスとの戦争が始まつたと勇ましくそのことを告げられました。なぜか私は不安でした。その年から小学校は国民学校と呼び方が変わりました。そして教科書も授業も、さらに忠君愛国、神國日本を強調するものに変わりました。歴史は天孫降臨から始まつて天照大神が天孫瓊瓈杵尊（一二一ギノミコト）に……

（続く）

サンタ登場 (H)



どうです？堂々としたこの体格。立派なもんでしょう。年末になり、いろいろ整理していたらひょっこり出てきました。木目込み人形です。Iさんの作品で、実によく出来ています。多くの人に見てもらおうと、友人の店先に置いてもらうことにしました。サンタも喜んでいるでしょう。

南京大虐殺の真相を読んでの感想 (A)

秋吉先生、有難うございました。謎が解けてまいりました。南京での出来事を否定しようとする政治家たちは、「殺された人数がそんなにいない」とか言っておりますが、これは争点そらしの議論でしかない。本質は“武器を持たない住民や捕虜となった兵士に対する大量虐殺が、日本軍によって行なわれた”ことだと理解しました。中国人や日本兵にも多くの証言者がいて実証されているから、国際的問題としてみられているのが基本であって、歴史を真摯に受け止めるのが筋。「南京大虐殺はなかった」は論争にも価しないと思います。残念ながら日本は、低レベルな「政治屋」を輩出しているようになります。



年末の笑顔です (K)

2013年もどうぞよろしくお願いします。カメラ目線を少し気にし過ぎてしまいましたね。

3月10日(日)ご参加ください

原発なくそう北九州市民集会 (Ta)

只今準備中。詳細が決まったらお知らせします。

読者投稿

パガサ・イワテ 決して希望を失わない！



2011年3月の東日本大震災と大津波で受けた心の傷は未だ癒えることなく、多くの人はトラウマや精神的なストレスという重荷を抱え続けています。

岩手県に住むフィリピン人達が自らのグループを「パガサ（タガログ語で希望の意味）イワテ」と名付けて援助活動を始めました。

奇跡の一本松（陸前高田を襲った大地震と津波の中でただ一本残った松の木）をモチーフとしたTシャツの売り上げは、医療費などの経済的な支援に当てられます。

色は緑とピンク 一枚2,000円です。

ご協力くださる方は有吉までご連絡ください
(090-8229-3167)

ご近所忘年会 (Ji)

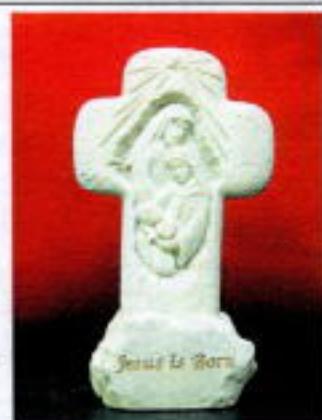
何度も誘われ、おことわりも出来ずに参加。御馳走も用意され楽しい歓談…「では、ここいらで」とカラオケが始まりました。人様の歌を聞くよりも、自分の曲目を探すのが精一杯。35年前の歌ばかりで、カラオケ人生に成長なしの自分を発見しました。

誕生日プレゼント (R)

Jesus is born

石を彫って出来ていますが、柔らかい材質で触ると温もりを感じます。でも本当の温もりは、友人が私の誕生日を覚えてくれていることですね。謝、謝。

(MAID IN CHINA)



分かち合のひととき

虹の会

11月25日 13名参加

さだまさし 作詞・作曲 『風に立つライオン』を聴いて分かち合いました。

「この偉大な自然の中で病と向かい合えば 神様についてヒトについて考えるものですね。やはり僕たちの国は残念だけれど何か 大切な処で道を間違えたようですね。」

原発問題等今の社会問題、そして日々の生活を通して、「ライオンにはなれないが、風に立

つヤギくらいで、これからも信念を貫く生き方をしていきたい。」「虹の会は私にとって教会です。」等、一人ひとりのあり方、思いが分かち合われました。

次回は1月27日です。どなたでもご参加ください。

ハンセン病問題から見えるもの

差別の垣根を取り除くために(8)

資料館での説明

資料館で学芸員から説明を受けました。

11 黒髪校事件（龍田寮事件）——親がハンセン病であつても感染していない子どもたちを引き取つていた龍田寮があり、その子どもたちが学校に通う年齢になり、黒髪小PTAが拒否した事件です。※この事件について概要説明します——編集部

〔熊本日々新聞2002年12月24日の記事より〕

検証ハンセン病史 第4部 光求めて 戦後編

黒髪小学校校門に張り出された張り紙

「行つてきまーす」。一九五四（昭和二十九）年四月八日、真新しいランドセルを背負つた新一年生四人は、ぺこりと頭を下げて龍田寮の門を出た。付き添いは、寮の保母ら五人。ケースワーカーだつた佐藤献さん（80）は、手をつないだ保母と児童から少し離れて見守つた。通学路にはところどころ、棒を持つた黒髪小の保護者らが閑所の番人のように立つていた。「襲いかかられたら、どうやつて子どもたちを守ろうかと思い緊張した」幸い、呼び止められることもなく学校に着いた。しかし、校門では心ない大きな張り紙が児童たちを迎えた。

「らふひょうの「おもと」しなにべんきょうをせぬようにな
しばらくがりじつをやすみませう」

当時、龍田寮分校でも教えていた同小教諭の松永宮子さん(77)は、校門わきのイチヨウの陰から、龍田寮児童の様子をそつとのぞいていた。「付き添いの保母さんたちが皆うつむいているのに、子どもたちは訳も分からず、にこにこしているのが対照的だった」

前日の反対派による町民大会で、同盟休校が決議されていた。反対派による児童の登校妨害もあつて当日、出席したのは全校児童千九百二十八人中わずかに七十六人。職員室前廊下では、賛成派と反対派父母の押し問答が続き、授業は一時限目で打ち切られた。：反対派は十二日から、校区内の各所で私設の寺子屋式教室を開設。同小は完全な分裂状態となり、市教委も二十二日から事態の沈静化を図るため臨時休校を決めた。

◆◆◆◆◆

(ハンセン病問題検証会議報告書より) 「当時小学校2年生で母親が恵楓園入所者だった○さんは、通学問題が表面化するまでは近所の子から差別されることはなかつたが、反対運動が始まつてから近所の子どもたちも一変し『らい病の子、うつる、寄るな』と言い、男の子たちが○さんに石を投げつけたという。以来、○さんも恵楓園の母親と面会するたびに『寄るな、うつる』と泣きわめくようになり『私自身も怖い病気だ』という意識を植え付けられてしまつた」のだった。

◆◆◆◆◆

龍田寮の子どもたちと、わが子の共学問題で分裂したPTA。この事件は全国的に注目されました。熊本商科大学長が、自宅に子どもたちをひきとり通学させることで事態は沈静化し、その後龍田寮の子どもたちは親戚や児童養護施設に極秘に引き取られ、龍田寮は廃止されました。一見解決したように見えますが、子どもたちの教育権・学習権を剥奪した事件を国も県も責任をもつて対処しないままの「解決」策がその後も差別意識を温存させることにもつながつたと言えます。龍田寮の入学児童で黒髪小学校を卒業した子どもは一人もいませんでした。(次号へ)

編集後記

投票日翌日の17日から二~三日、選挙結果に対する様々な思いが届きました。「国防軍を保持する」という案を出した自民党が圧勝したのですから、当然でしょう。ある読者の方に“自分があきらめた時が希望を失う時、希望を持って歩みましょう”とFAXしたら、彼女は口マ書5-5「希望はわたしたちを欺くことがありません」「だから救い主が生まれるクリスマスは毎年やってくるのです」と言って周囲の人たちを喜ばせたそうです。そして「歴史は祈りの連鎖でも作ってゆかなければ」と。新たな年に相応しい言葉を頂きました。（瀬下）